

第7回 英語で読書に挑戦編（前編）

夏がやってきました。日も長くなり、海や山に出かけるのにぴったりの季節ですが、あまりに暑いのでつい家にもってしまおうという方も多いのではないのでしょうか。そんなインドア派のあなたにオススメなのが読書です。最近では電子書籍が充実していますし、Katyには日本の書店もありますのでヒューストンにいても日本語の本を簡単に読めるようになりました。もちろん、三水会図書館も忘れてもっては困ります。

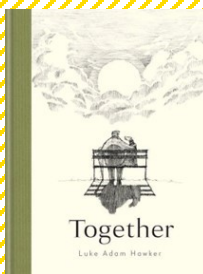
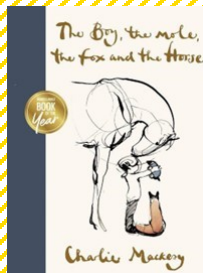
一方で、折角アメリカに来たのだから英語の本も読んでみたいと思った方もいるかもしれません。でも、英語で本を読むのってハードルが高いですね。中学や高校の英語の授業で苦労したのを思い出して、自分には無理だと考えてしまうかもしれません。そんなあなたに、どうしたら英語の本が読みやすくなるのか、オススメをご紹介します。（編集委員 鶴飼 信）

絵があれば話が分かる

まず紹介したいのは絵のある本です。文章だけだと分からなくても、絵が描いてあれば何の話なのかパッと見て理解できます。小さいお子さんがいる場合は英語の絵本を買ってきて一緒に読むのもいいでしょう。Christopher Deniseの『Knight Owl』などは絵がとても可愛らしく、読み聞かせにも向いています。

絵のある本といえば、小児向けの絵本以外にもいろいろあります。2020年9月号で紹介したCharlie Mackesyの『The boy, the mole, the fox and the horse』やパンデミックの中で書かれたLuke Adam Hawkerの『Together』などもこのカテゴリーに属します。最初のうちはなるべく絵が多くて、文章が短い作品をオススメします。慣れてくれば少しずつ文章の多い本に挑戦してもいいでしょう。

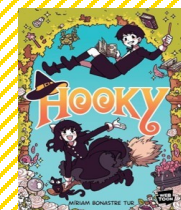
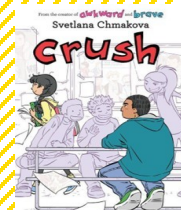
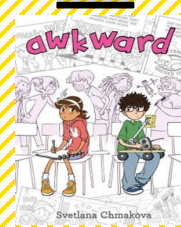
他にも犬や猫の写真にひとことコメントがついているような写真集もたくさん売っています。あまり読書という感じではないですが、短い文を通じてボキャブラリーを増やしたり、英語表現を学ぶのに役立ちます。



Schoolシリーズは『Awkward』『Brave』『Crush』の3作が刊行されていますが、それぞれ主人公を変えながら中学生の様々な悩みを取り上げ、好感がもてます。（上記3作の他、新作短編付の日記帳『Diary』が発売中。さらにこの秋には新作『Enemies』発売予定です）

またこうした作品ではセリフのかたちで英文が出てきますので、口語表現を覚えるのに向いています。例えば『Awkward』では“I hate to say this, but...”（こんなこと言いたくはないんだけど）というセリフが出てきますが、私たちの日常でも使う場面がありそうですね。

最近の作品だと、スペインのコミック作家Miriam Bonastre Turの『Hooky』も気になるころ。魔法使いの名家に生まれた双子の姉弟ダニエラとドリアンが主人公のファンタジーですが、ハリ・ポッターの亜種だと思って油断していたら大間違い。社会の分断や歴史認識など、極めて現代的なテーマに真正面からぶつかっていて読み応えがあります。昨年刊行の第1巻はまさにこれからというところで終わっており、今年秋の第2巻刊行が待ち望まれます。



マンガだって本だ

絵があれば分かりやすいということ言えば、マンガを読むというのも手です。日本の漫画はアメリカでもMANGAとして認知されており地元の書店でも普通に英訳版が並んでいます。『Demon Slayer (鬼滅の刃)』などはアメリカのコミック新刊売り上げの上位に来ており、人気の高さがうかがえます。

でも日本の漫画は日本語版で読んだ方がいいよね、というも確か。あえて英語で読むからには最初から英語で書かれた作品の方がいいでしょう。となるとMarvel Comicsなどのいわゆるアメコミが思い浮かぶのではないのでしょうか。それもありません。アメリカの書店で売っているコミックスはいわゆるアメコミにとどまりません。Graphic novelというジャンルで様々な作品が出版されており、中には日本の漫画の影響を受けていると思われるものもあります。

こうした作品には子供向けのものが多いですが、大人が読んででもそれなりに楽しめます。例えばSvetlana ChmakovaのBerrybrook Middle

型にはまらない多様な作品

そして日本人としては是非おさえておきたいのが Jonathan Fetter-Vorm の『Trinity』です。これはマンハッタン計画、つまりアメリカによる原爆開発の歴史を描いた作品ですが、オッペンハイマー博士をはじめとする原爆開発者を英雄視せず、また原爆の悲惨さにもまっすぐに目を向けています。このように、多様な作品に出会えるのも英語でコミックを読む楽しさと言えるでしょう。

